



◇ **今回は、寺口友基さん（南山大学法学部法律学科）のレポートです！**

●はじめに

こんにちは。2016年3月に関高校を卒業した、寺口友基です。高校時代は、吹奏楽部に所属していました。現在は、南山大学法学部法律学科に在籍し、大学でも吹奏楽団に入って活動しています。また、2歳から住み続けている美濃加茂市において、2017年3月末に発足した美濃加茂市若者委員会の1期生としても活動し1年間の任期を終えようとしています。このレポートでは、若者委員会での活動、吹奏楽を通して感じたこと、オーストラリアへの1か月間の短期留学で感じたことを主に書き、最後に、大学受験に向けて勉強するみなさんへ、エールを送りたいと思います。

●若者委員会での活動

若者委員会が美濃加茂で立ち上げられることを知ったのは、いかにも現代らしい、Twitterでした。小学生の頃から、なんとなく社会の授業が好きで、面白そうだなあと感じて応募しました。すごい熱い思いをもって参加しようと思ったのではなく、本当に思いつきです…。

1年間の活動は、身近で些細な美濃加茂の良いところ（市内に多く暮らす外国人のためのポルトガル語による市内放送など）を発見することから始まり、美濃加茂市にゆかりのある若者が、ふるさと美濃加茂の未来を考え、地域の課題とその解決方法や地域の強み、その発展方法を高校生に提案し、最後には、実際の選挙と同じ備品を用いて模擬投票を行う

「票育」といった高校生相手の出前授業を行ったり、隔週で行うskypeを使ったミーティングなど、多岐に渡るものでした。なぜskypeなのかと思うかもしれませんが、委員のみなさんが18歳～25歳で、東京・静岡・美濃加茂・坂祝に住む、大学生・大学院生・社会人であるため、物理的に頻繁に会うのが難しいけれど、テレビ電話形式であれば、ほぼ対面と同じように会議ができるからです。

さて、「票育」出前授業は、比較的、外国籍の生徒が多い高校において行われました。小中学校のクラスメートに、1・2人は必ず外国籍の友達がいる環境で育ったこと、後述の短期留学の経験から、

日本人と外国人がもっと共生できるような「まち」であってほしい、そんな気持ちから「日本人と外国



美濃加茂市若者委員会発足式・美濃加茂 ver.にて



加茂高校定時制における主権者教育「票育」にて

人が持ちつ持たれつの関係 give and take な関係を築くため」に、2つのことを提案する候補者役を務めました。普段の生活で、大勢の人前で話したり、自分の考えを演説することなど経験したことがなかったので、緊張しましたが、地元について考えるきっかけにもなりました。また、実際の選挙と同じような候補者になるということで、地域の現実を捉えたり、市民の皆さんの声を聴く必要があるのではないかと考え、日本語を話すことができないブラジル人の一家に通訳さんを通して、聞き取りをしたり、ハローワークを訪問して、外国人労働者の就労状況について聞き取りをしたり、外国人が日常的に行く教会を訪問して、異文化を体験してきました。

正直、このような活動をする前は、20年近く美濃加茂に住んでいるのにも関わらず、知らないことが多く、この活動を通して、初めて知ることがほとんどでした。また、知れば知るほど、「もっと『まち』のことを知りたい、もっと『まち』のことをみんなに知って欲しい」と思うようになりました。

だからこそ、任期末を迎えようとしている今、皆さんには、「地元ってどんな『まち』なんだろう」と、たまに振り返ってみたり、自分の意思を表明する場の1つである選挙に参加してほしいなと思っています。また、思いつきで行動してみることも、たまには大事だということを伝えたいです！

●吹奏楽を通して感じたこと

みなさんは、自信をもって楽しい！と思える何かがありますか？それが、スポーツであったり、友人と遊ぶことであったり、音楽鑑賞であったり、美術館で作品を眺めることであったり、人それぞれだと思います。僕の場合は、高校から始めた吹奏楽でした。「吹奏楽の魅力ってなんですか？」と現役関 brass の皆さんに聞いても十人十色だと思いますが、僕は、演奏を通してみんなといろんな喜びを味わえること、友達が増えること、オーケストラと違って管楽器ならではの迫力を表現できることだと思います。

関 brass では、部員40人程度の頃に入部し、引退するときには、なんと90人以上もいて、パートでさえ7人いたので、音をまとめたり、考え・想いを1つにすることが大変で、けんかになることもありました。それ以上に、定期演奏会でのお客さんの拍手や、大会での達成感など、今ではいい思い出になっています。高校を卒業しても、パートの同期や、後輩、お世話になった先輩と遊びに行ったりするたびに、なんだか楽しかったなあと思っています。また、違う大学に進学した友人が出演する演奏会へ行って演奏を聴くことで、人とのつながりは大事ななあ実感しました。

大学でも、サークルではなく、部活として活動する吹奏楽団に入団しました。大学では、高校の頃とは違う楽器に挑戦しています。なんとか上達するために、自身の引退のステージ直前にも関わらず、基礎から指導して下さる先輩や力を合わせて演奏会・普段の練習を企画・運営できる同期に恵まれ、高校とは違った



1、2代上の先輩も定演に駆けつけてくれ5世代での1コマ



大学吹奏楽団定演でサクソパートの同期と

楽しさを感じています。また、団のスケジュールを管理したり事務手続をする役職を務めはじめ、大変な部分もありますが、やりがいがあり、演奏会へのモチベーションの向上にもつながっていると思います。

少し長くなりましたが、楽しい！と思えるものは、人それぞれ違うと思いますが、ふと振り返ると、何気ない出来事が、感慨深い思い出になってきます。楽しいと感じることを、ぜひ、続けてみてください！

●短期留学で学んだこと

ここでは2017年の6月からの1か月間経験した、オーストラリア・シドニーでの短期留学について書こうと思います。シドニーに行ってみようと思った理由として、異文化に触れてみたい、日本語が通じないところに身を置いてみたい、自身をもってやり切ったと言えるものをつくりたいと、思ったことが挙げられます。

正直、渡航して1週間も経たないうちに、自分の話す英語力がなさすぎると痛感しました。

そのため、思っていることを伝えるために、と

ても時間がかかりました。聞く方は、高校で習った英語で、日常生活を送るには十分だったので、まず十分に相手の話を聞き、難しいことについては対話するのに時間がかかりましたが、考えながら話していました。

僕が参加したプログラムは、法学部が主催するものであったので、シドニーでは、英語を勉強するだけでなく、オーストラリアの司法制度についても学びました。具体的には、連邦最高裁判所や、検死裁判所での裁判傍聴や、囚人宿泊所・移民収容所・裁判所として使われ現在は、バラック博物館となっているところを見学しました。学部柄、岐阜地裁や名古屋高裁で裁判傍聴したことがあったので、日本の裁判との違いに注目していました。

また、この1か月間で一番思い出深いのは、ホームステイです。というのも、諸事情により急遽、後半の1週間半、ホームステイ先を変更することになったのですが、急なお願いにもかかわらず受け入れてくれ、本当の家族のように接してくれたからです。シドニーのお店は、ほとんど17時に閉店してしまうので、20時には就寝するのが当たり前なのですが、20時過ぎても毎晩夜ご飯を一緒に作って食べたり、5夜連続で特集放送されていた「Master Chef Australia」という日本の食材をテーマにした料理対決番組を観て楽しんでいました。

この1か月を通して、日本語が伝わらない世界でも、やはり、人と人とのつながりがあって今の自分がある、だからこそ、日常生活での何気ない1シーンが大切だなあと感じました。きっかけは、いろいろあると思いますし、僕の性格では、常に全力でいるのはなかなか難しいので、1日の終わりにどんなこ



バラック博物館(シドニー)にて



世界遺産・ブルーマウンテンにて

とをした1日だったか、振り返るようにしています。

●さいごに

さいごに、大学受験に向けて頑張っている関高生のみなさんに、1つだけ伝えたいことがあります。何かというと、部活をやっている皆さんは、部活も頑張りつつ、やっていない皆さんは、なにか1つ息抜きになるものをやりつつ、感謝する気持ちを忘れずに自分が納得できるだけの勉強をして、進路決定をしていってくれたら…ということです。

僕は、センター試験で思うように点数が取れず、関東の某公立大学に出願し合格をいただきましたが、結果的に、自宅から南山に通うことにしました。というのも、より異文化に触れてみたいなと思っていて、後者の方がそのチャンスがあるのでは…と考えたからです。この選択を受け入れてくれた両親には、感謝しています。また、南山に通い始めたことで、シドニーに行くという選択をし、他にはない専門的な異文化経験が出来ましたし、日本人と外国人の「共生」について考えたり、南山吹奏楽のみなさんに出会えたので、国公立に進学しなかったことに後悔は全くありません。すべて受験を終えた後や大学に進学してから、後悔しないように頑張ってください。応援しています！！

*美濃加茂市若者委員会について詳しく知りたい方は、以下のURLをみてください。

「みのかも取材日記」<https://plaza.rakuten.co.jp/machi21minokamo/diary/?ctgy=33>